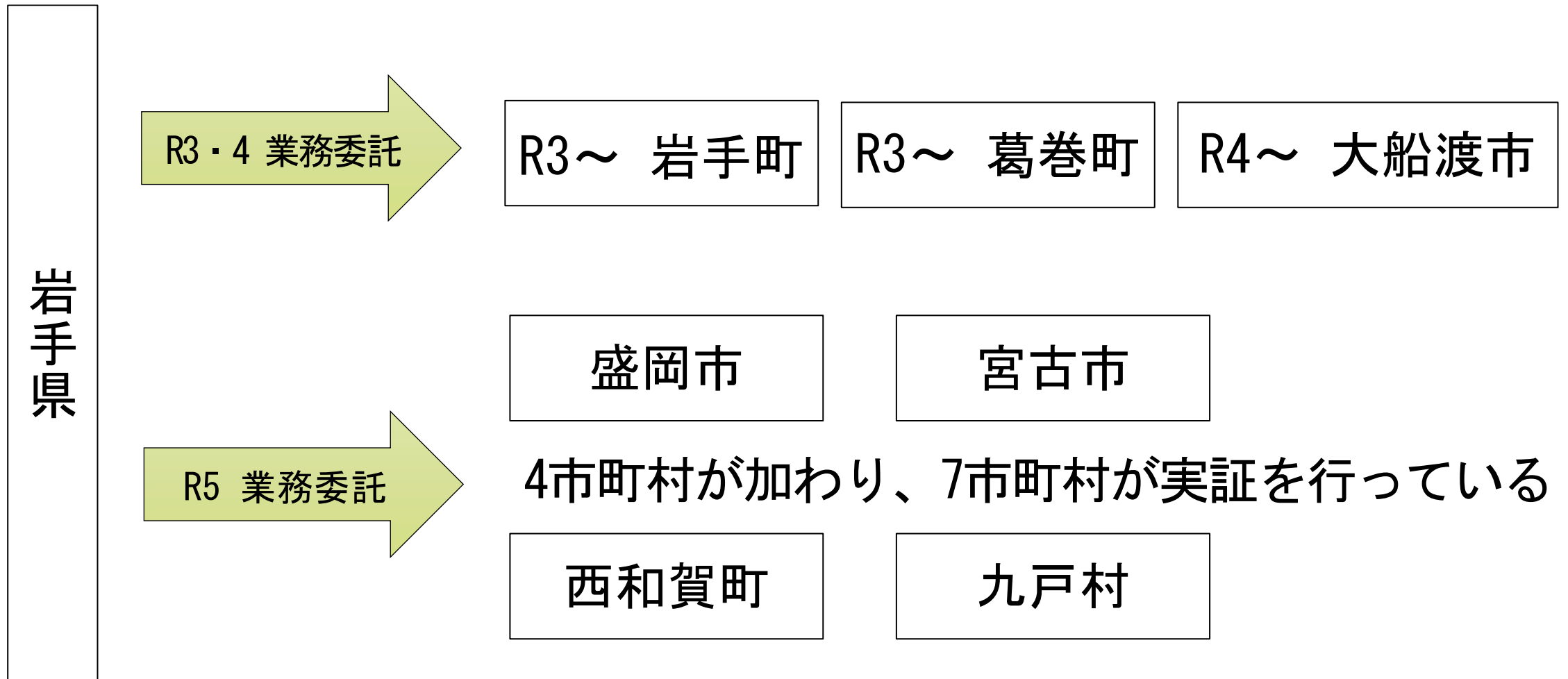


東北ブロッククラブネットワークアクション2023

令和5年度岩手県における 休日の段階的な地域移行に関する 実践研究について

岩手県クラブアドバイザー 板垣敬重

令和5年度岩手県の地域移行推進に向けた取組の概要



盛岡市の具体的な取組内容

盛岡市地域スポーツ活動体制整備事業

- 地域スポーツ団体が休日に生徒の地域スポーツ活動を指導する体制を構築し、生徒が自主的・自発的にスポーツ活動に取り組み、体力や技能の向上を目指す活動機会を確保するとともに、生徒の多様なニーズに応えるため、既存の部活動にはない多種多様なスポーツの体験会を開催することにより、校外活動として活動ができる環境整備を実証するもの。
- 事業の内容
 - (1) 地域スポーツ活動の実施
 - (2) 多様なスポーツ活動の体験会の実施
 - (3) 意向調査の実施
 - (4) 地域スポーツ活動に関する検証

盛岡市の事業内容

(1) 地域スポーツ活動の実施※抜粋

- 実施団体 一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 実施校 市内8校
- 対象種目 ハンドボール（3校合同 上田・城西・見前南）
野球（4校合同 見前・飯岡・乙部・見前南）※旧都南村
卓球（2校合同 渋民・巻堀）※旧玉山村

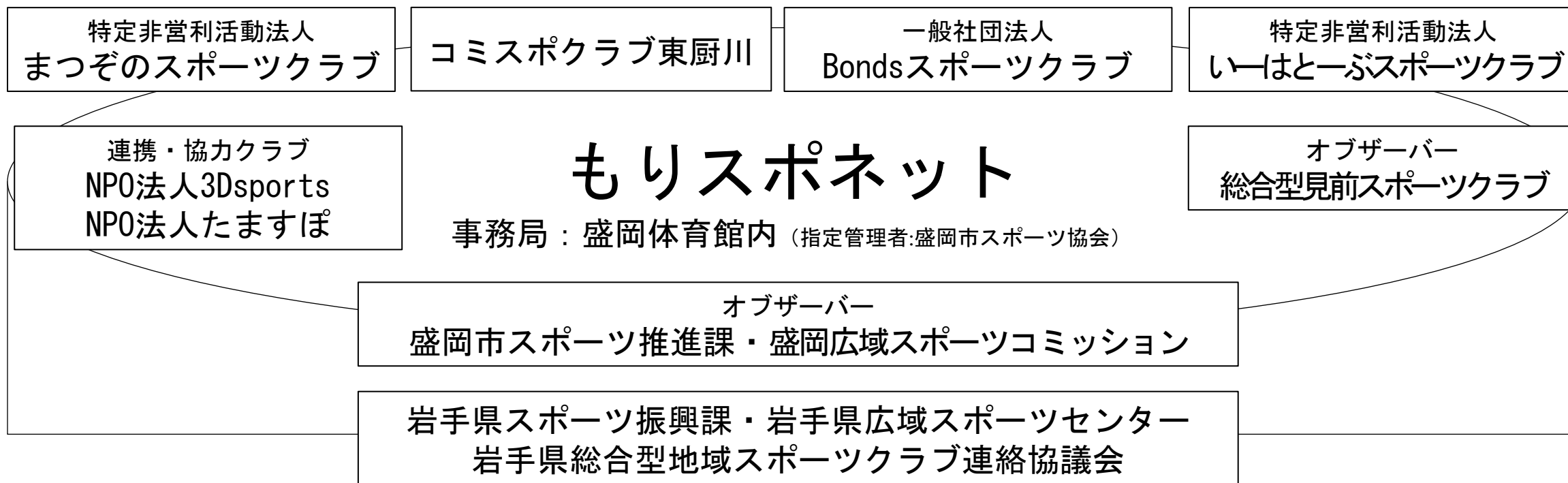
(2) 多様なスポーツ活動の体験会の実施※抜粋

- 実施団体 一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
- 実施校 市内全校
- 対象種目 ニュースポーツ等2種目

盛岡市の事業内容

一般社団法人盛岡市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会（もりスポネット）について

平成28年12月、市内クラブそれぞれの持つ「強み」と「弱み」を共有し、補っていく組織として設立した法人。



西和賀町の事業内容

誰もが参加できる生涯スポーツの振興 （「令和5年度西和賀の教育」より）

- スポーツが出来る機会の創出と、新たに地域スポーツコーディネーターを配置し、地域部活動の推進と体育協会やスポーツ少年団等の組織強化を図る。
- 指導者育成研修会への参加を呼びかけ、町のスポーツを支える指導者の養成を図り、県を越えた選手の集まるスポーツイベントの開催と交流を推進し、スポーツを通じた町の活性化に努めていく。

国の実証事業（委託事業）の活用 （「令和5年度西和賀の教育」より）

- 中学校部活動の休日の地域移行と休日部活動の在り方を検討するとともに、将来の本格的な地域移行に併せ、地域スポーツクラブの設置に向けた検討に取り組む。

宮古市の事業内容

具体的な活動

- 検討委員会を開催し、関係団体との連絡調整を行う。

九戸村の事業内容

具体的な活動

- 検討委員会を開催し、関係団体との連絡調整のうえ単種目（ソフトテニス）での実施を計画。冬季の実施ということで、実施会場を二戸市総合スポーツセンターを会場に実証活動を行うことことで、調整を進めている。

課題

地域移行における今後の課題及び対応（R3・4年度実施団体報告から抜粋）

●【関係者との連絡調整・連携体制の構築方策】

- ・参加者(保護者)との連絡調整については問題ないが、地域団体と学校との連絡、及び情報共有について弱い部分がある。この他にも様々課題があるため、研究事業後も引き続き具体的協議の場を設ける必要を感じる。
- ・毎年度、当初から事業を開始できるように、関係部局の立ち位置や役割を確認して推進していく。
- ・活動場所・時間等の設定において、学校や既存の部活動や既存の利用団体との調整が必要。

●【受け皿団体の確保方策】

- ・スポーツ活動の受け皿は、町体育協会以外に組織体制が整った団体が見当たらない。このため、町としても体育協会への支援は今後も必要と考える。
- ・町のスポーツ協会や種目別協会に対し、各協会の維持存続にもつながるような体制整備を目指すことなどを示したうえで、指導協力を依頼する。

課題

地域移行における今後の課題及び対応（R3・4年度実施団体報告から抜粋）

●【指導者の確保方策】

- ・町に在籍する競技（部活動）すべてに対し、地域指導者を確保できるよう、岩手県の人材バンク等も利用しながら情報取得に努める。
- ・R4年度予算では、指導者謝金を1名分の計上であったため、当該指導者の負担が多くなっていたが、今後は、指導者が複数人となっても対応可能となるよう、謝金上限を設けたうえで整備する。
- ・練習会場までの費用弁償も検討していく。
- ・今後も関係団体と連携強化し、持続的に指導者の確保が必要。
- ・多様なニーズへの対応や指導者の質の向上のため、定期的な指導者講習会等開催や参加が必要（アンダーマネジメント・パウハラ等）

●【困窮世帯への支援方策】

- ・新たな参加者負担がでないよう、支援をする考えであるが、費用負担のあり方、移動手段の確保についても検討したい。

課題

地域移行における今後の課題及び対応（R3・4年度実施団体報告から抜粋）

●【地域移行の自走化に向けた方策】1

- ・町内中学校初め関係者等の協議が不十分であることから、改めて運営検討会議等、具体的な協議をする場を設け、移行化の体制を整えていく。
- ・事業推進の主体を町教委から、町スポーツ協会に移すことで、より地域と近い連携を図ることができるよう指導主体を種目別協会に依頼することで、各協会の維持存続につながるよう整備した。
- ・以前から、平日夜間などを中心に顧問が従事不可能な時間帯に、地域人材が指導してきた実績があることから、部活動の地域移行を休日に限るのではなく、平日夜間などの活動も対象とみなすと示し、町の状況に適した体制基盤の構築に努めた。
- ・補助対象は休日活動分のみであったが、R4年度から平日夜間の活動も対象とみなし、平日活動分への謝金も含めた町独自の予算を計上。
- ・R5年度からは、実践による反省を踏まえ、指導者ニーズに対応した予算を計上し、また、指導者を踏まえた意見交換の場を定期的に設ける。

課題

地域移行における今後の課題及び対応（R3・4年度実施団体報告から抜粋）

● 【地域移行の自走化に向けた方策】 2

- ・ 競技力向上や競技を楽しむ活動など生徒や保護者の意見を確認し、慎重に活動内容を検討
- ・ 活動方針等を地域指導者・顧問・生徒・保護者等で適宜確認が必要
- ・ 不測の事態に備え、非常時連絡体制の作成
- ・ 活動時における出欠連絡方法の調整

● 【地域特有の課題への対応策】

- ・ 関係部局の代表者を招集した検討会議だけでなく、指導現場を一番理解している地域指導者向けの意見交換の場を設け、現状にあった体制の整備を目指す。
- ・ 人口減少により、生徒も指導者の確保も厳しさを増していく事が予想される。生徒のニーズに応え、能力を高める一助となるような仕組みを講じたいと考える一方で、町の財政的負担も厳しさを増しており、非常に悩ましい。